

往還ノート

1 学期 2 号 (234 号) 2019 年 7 月


放送大学 広島学習センター
福山サテライトスペース

社会のなかの認知症を考えてみませんか

放送大学広島学習センター客員准教授 谷川 良博

今年度、「認知症、正しく理解して支援につなげよう」をテーマに広島学習センターの公開特別講座を担当します。3 回シリーズで構成し、第 1 回を「認知症の症状について」、第 2 回を「認知症の障害について」、第 3 回を「認知症の生活上の困りごとについて」としています。



また、私は 5 年ほど前から広島学習センターや福山サテライトスペースの面接授業において「認知症の作業療法」の講義を担当しています。年に数回、市民センターなどの勉強会に呼んでもらい、地域の方々と共に学ぶ機会をいただいています。このような機会を得るたびに、私はリハビリテーションの専門職（作業療法士です）の視点で構成するように心がけています。なかでも私が大切にしているのは、「認知症になったら、何もわからなくなる」という偏見や間違った考えをなくしてもらうことです。そのためには、受講者に認知症に関する正しい知識を得てもらうことだと考えています。認知症にはアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症など多くの疾患があり、それぞれに特有の症状がみられます。これについては、第 1 回の公開特別講座で紹介する予定です。第 2 回と第 3 回では症状を理解したうえで、認知症の本人が何に困っているのか、どのような支援が求められているかを学ぶことも予定しています。

近年では認知症という病気になっても、会社で働いている方やボランティア活動で活躍している方が増えています。デイサービスから仕事に出かけることも可能になってきました。これらの方々は、少なからず他者の支援が必要ですが、社会に参加しています。人は誰も、「今日、用がある」、「今日、行く所がある」、「自分が必要とされている」、このような普通の事柄を実感できる機会が必要です。このように、今までの認知症に対するパラダイムが大きく変わる時期にきていると実感します。

目次

客員教員寄稿	1	視聴学習・図書室からのお知らせ	5
「所長室コーナー」から	2	行事のお知らせ	6
事務室からのお知らせ	3	スケジュール(7 月～10 月)	8

発表すること(5)

広島学習センター所長 山田 隆

通常の学術発表会においては、一件ごと発表が終了すると引き続いて質疑応答が行われる。会場には当該研究分野の専門家が多数集まっている筈であり、提示された問題について議論を深く広く展開できる可能性がある。場合によっては、会場での議論が新しい研究・技術開発のヒントとなり、また、重要な論文作成のきっかけともなりうる。特に、科学技術関係の学会では、時代の最先端トピックスが発表されるので企業関係者にとっては貴重な情報収集の場となる。企業は若手研究者を多数派遣し、教育を兼ねて最新情報の収集を図る。若手研究者は、収集した情報を後日報告する義務を負う。報告するためには発表内容をきちんと理解しなければいけない。きちんと理解するためには、不明な部分について質問し議論する必要がある。とにかく、有意義な議論のきっかけを作るためには、まず質問をすることである。単純、初歩的な質問が入り口となって、どんどん核心部分へ迫ってゆく場面も多い。それでは、挙手して何をどう質問しようか？ いざ質問するとなると質問もなかなか難しい。躊躇する理由の筆頭は「こんな初歩的な質問をして笑われるのではないか?」、「場違いな質問をして白けてしまうのではないか?」、「間違っただけで恥をかくのではないか?」などであろう。経験上、質問の入り口として入り易いのは「方法論」である。「〇〇を調べるのに××の方法を用いているが、その長所と短所は何か?他に方法は無かったのか?」などである。ここで、その方法を用いたことによる「バイアス」「陥穽」「見落とし」「再現性」「偶発性」「特殊性」などの問題が浮き上がってくる。質問の回答が次の質問を呼び、議論が深まる。さらっと流した発表の裏の苦労話などが披露される場合もある。用いた方法に結果が強く制限されていたのでは、そこに一般性を見出すことは難しくなる。一見、発表直後は「完璧」に見えた結論が、「アリの一穴」から瓦解するといったことも無きにしも非ずである。独創性の高い「方法」については、特許申請の関係から表に出にくい場合もある。それでも大枠（適用範囲、コスト、所要時間、使用機器、スケール、再現性等々）については聞いてみる価値がある。発表によって、質問が多く挙がり盛り上がるものと一つも質問が出ないものもある。知人にサクラ役を頼んで盛り上げる手もある。有意義な議論を踏まえた後、発表内容は聴衆コミュニティによって評価される。残念ながら、日本の学術学会は短い発表時間に制約されて、十分な議論をする場とはなっていない。学生や若手研究者の発表経験を積む訓練の場としては機能しているかもしれないが。



過去の機関誌「往還ノート」へ掲載された所長室コーナーからの「発表すること」(1)～(4)は、広島学習センター・福山サテライトスペースホームページ機関誌紹介に「往還ノート」のバックナンバー(過去1年分)を掲載しておりますので、そこから閲覧することができます。(「発表すること」(1)～(4)は2018年7月号(230号)、10月号(231号)、2019年1月号(232号)、4月号(233号)に掲載しています。)

●○単位認定試験について○●

□学生生活の葉(大学院 P66~/教養学部 P71~)参照

《2019 年度第 1 学期単位認定試験日程、試験期間中の開所時間・閉所日》

7/19(金)	7/20(土)	7/21(日)	7/22(月)	7/23(火)	7/24(水)	7/25(木)	7/26(金)	7/27(土)	7/28(日)
大学院	大学院	学部	閉所	学部	学部	学部	閉所	学部	学部

【開所時間】 広島学習センター 9:00~19:00(視聴学習・図書室 9:00~18:45)

福山サテライトスペース 9:00~18:45

《持参物》

● **単位認定試験通知(受験票)**…**7月12日(金)**になっても到着しない場合は、大学本部(総合受付 ☎043-276-5111)へ連絡してください。

● **学生証**● **H B の鉛筆**(シャープペンシルは不可)・消しゴム

● **持ち込み許可物品**…持ち込み許可物品は試験の約 1 ヶ月前にセンター内掲示版へ掲示し、システム WAKABA「キャンパスライフ→学習案内」へも掲載します。受験票送付時にも併せて通知します。

※筆記具や持ち込み許可物品は、**事務室での貸出しは行いません。**

《出題形式》

試験は、択一式(マークシート)、記述式、両者併用式があります。試験の約 1 か月前にセンター内掲示版へ掲示し、システム WAKABA「キャンパスライフ→学習案内」へも掲載します。受験票送付時にも併せて通知します。

《試験時間》

● 50 分間です。

● **試験開始 10 分前までに入室してください。**● **試験開始 20 分以降は入室できません。**

《成績》

試験結果は(教養学部は面接授業の成績とともに)、**8 月下旬**に「成績通知書」によって通知します。

システム WAKABA「教務情報」→「履修成績照会」でも確認することができます。

《再試験》

今学期(2019 年度第 1 学期)、新規に科目登録した科目については、**次学期(2019 年度第 2 学期)に引き続き学籍がある場合に限り**、次学期に再試験を受験することができます(休学中の場合を除く)。

2016 年度以降に新規開設したオンライン授業科目は、単位認定試験を行いませんので再試験はありません(小学校外国語教育教授基礎論('17)を除く)。

《単位認定試験問題・解答等の公表》

今学期の試験問題は **8 月上旬**、解答等は **8 月下旬**に公表予定です。

試験問題及び解答等は、過去 1 年分を、インターネット(システム WAKABA「学内リンク」より遷移)、広島学習センター(視聴学習・図書室)及び福山サテライトスペース(図書コーナー)で閲覧できます。郵送サービスも放送大学本部にて行っていますので、利用されたい方は学生生活の葉(教養学部:P77~/大学院:P72~)にて申込み方法等確認してください。

《試験の疑義について》

受験した科目に関する疑義が生じた場合は、以下のとおり申し出てください。電話により申し出ることはできません。

・受験中：試験監督員

・試験期間中：受験した学習センター

・試験期間終了後：システム WAKABA「授業サポート→質問箱」または学生生活の葉巻末の「単位認定試験に係る疑義申請票」を放送大学本部まで郵送

疑義の受付期限は、当該学期の解答等公表日から起算し 14 日目までです。

●○次学期の履修手続きについて○● ☞学生生活の葉(大学院 P55～、P88/教養学部 P60～、P95～)参照

① 次学期も学籍のある方

次学期に履修する科目の科目登録申請を期間内に行ってください。

☞	申請期間	申請方法
郵送	8月15日(木)～ 8月30日(金)本部必着	7月中旬に送付されます科目登録申請票に次学期に履修したい科目を記入の上、大学本部へ郵送してください。
インターネット	8月15日(木) 9:00～ 8月31日(土)24:00	システム WAKABA の「教務情報→科目登録申請」から手続きを行ってください。

② 今学期で学籍の切れる方

引き続き放送大学で学習されたい方は、継続入学手続きを期間内に行ってください。

☞	出願期限	出願方法
郵送	【第1回募集】 8月31日(土)本部必着 【第2回募集】 9月20日(金)本部必着	7月中旬に送付されます継続入学用募集要項(※)もしくは一般の募集要項に必要事項を記入の上、大学本部へ郵送してください(選科・科目履修生から全科履修生に継続入学する場合は一般の募集要項にて手続きをしてください)。 <small>※集団入学、共済組合を利用しての入学、自主退学者には送付されません。</small>
インターネット	【第1回募集】 8月31日(土)24:00 【第2回募集】 9月20日(金)24:00	システム WAKABA の「教務情報→継続入学申請」、もしくは放送大学ホームページのインターネット出願から手続きをしてください(教養学部への継続入学生で面接授業も登録したい方は下記◎部分を参照してください)。

③ 今学期末に卒業見込みの方

成績判定後に次学期に向けて手続きを行ってください。

必要な手続き	手続きに該当する方
科目登録申請(①参照)	今学期末で卒業できなかった方で、 次学期も学籍がある場合。
継続入学(②参照)	今学期末で卒業できなかった方で、 次学期に学籍がない場合。
	今学期末で卒業される方で、 引き続き放送大学で学習を続けたい場合。

④ しばらく科目登録していない方

全科履修生は連続して4学期(2年)間、科目登録申請及び授業料納入を行わないと除籍になります。連続して3学期間、科目登録手続き、授業料納入を行っていない方は、この機会に科目登録申請を行い、学習を再開しましょう。

◎ 継続入学生が学期当初から面接授業の登録申請をする場合

教養学部(全科履修生・選科履修生・科目履修生)への継続入学生で、学期当初から面接授業の登録申請を希望される方は、**科目登録申請期間中(8月15日(木)～8月31日(土))にシステム WAKABA(「教務情報→継続入学申請」)から出願を行う必要があります。**

- 学期当初からの面接授業の科目登録申請は、郵送での受付はありません。
- 科目登録申請期間外に継続入学申請を行った場合、面接授業の科目登録申請はできません。
- 出願時には、1科目以上放送授業又はオンライン授業を登録する必要があります。面接授業の登録申請のみでは出願できません。

●○次学期の学生証の交付について○●

☐学生生活の葉(大学院 P24~/教養学部 P18~)参照

9月末で学生証の有効期限が切れる全科履修生の方、次学期に継続入学される方の学生証は、**10月2日(水)から交付**できます。有効期限が切れている方は旧学生証を、継続入学される方は旧学生証と「入学許可書」を事務室窓口まで持参してください。

顔写真を新しくされたい方は、更新の1か月前に学生生活の葉巻末にある「写真票」を放送大学本部学生課まで郵送いただくか、システム WAKABA「教務情報→学生カルテ」から変更してください。システム WAKABA は有効期限日の2か月前より変更可能です。



視聴学習・図書室からのお知らせ

◆◇視聴学習・図書室の学期末臨時閉室について◇◆

次学期準備のため、広島学習センター視聴学習・図書室を**9月24日(火)～29日(日)**の期間、閉室します。

福山サテライトスペース図書室は通常通り開室しています。

◆◇庄原教室での放送教材の視聴について◇◆

庄原教室(庄原市民会館：庄原市西本町二丁目 17-15)においても、放送教材の視聴ができます。現在、庄原教室に教材が配架されていない科目を履修されている場合は、複製もできますので、複製希望科目を**8月31日(土)**までに広島学習センター(☎082-247-4030)へ連絡してください。8月31日以降も複製の受け付けはいたしますが、複製作業に1か月程度要することから、教材の配架は10月以降となります。

庄原教室へ現在配架されている科目については、広島学習センターへお問い合わせください。

◆◇広島学習センター配架雑誌バックナンバー配布について◇◆

2017年度(4月～3月)、2018年度(4月～9月)に広島学習センター視聴学習・図書室に配架していた雑誌のバックナンバーを、単位認定試験期間中に無料配布いたします。引き取りを希望の方は、先着順でお持ちください。なお、雑誌の予約申込や配送は受け付けておりません。(配送は着払いも不可です。)

◆配布期間：7月19日(金)～7月28日(日)

◆場 所：広島学習センター視聴学習・図書室

◇配架雑誌◇

英語教育／栄養と料理／科学／家計経済研究(2017年度のみ)／教育学研究／公衆衛生情報／
こころの科学／思想／情報処理／数理科学／都市問題／ニュートン／一橋ビジネスレビュー／月間福祉／
文藝春秋／法学セミナー／ユリイカ／臨床心理学／Interface／National Geographic／
WIRED(2017年度のみ)

納涼会のご案内

学生相互及び教職員との親睦を目的に、納涼会を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。お一人でもお気軽にご参加ください。

- 日 時：8月2日(金)18:00～
- 場 所：福屋広島駅前店屋上 パノラマビアガーデン
- 参加費：男性 3,200円 / 女性 3,000円 ※当日お支払いください。
- 申込締切：7月30日(火)
- 申込先：広島学習センター事務局

研 修 旅 行

「発酵」を学び、里海の瀬戸内海がはぐくむ生物たちの展示を観る
また、中世瀬戸内で活動した村上水軍の足跡を確かめる

今年の研修旅行は尾道市因島で、人々の里海である「瀬戸内海」ではぐくまれた身近に生息する生き物たちを展示している福山大学のマリンバイオセンター水族館と植物発酵食品「万田酵素」等を生産販売する地元企業が「発酵」をテーマに一般に公開している「HAKKO パーク」の見学をします。

また、中世の瀬戸内海で活動した水軍(海賊衆)である村上水軍の貴重な資料を展示した展示館「因島水軍城」も併せて見学するという研修旅行を計画しましたので、ふるってご参加ください。

- 日 時：10月12日(土)
広島学習センター 8:00 出発 / 福山サテライトスペース 9:35～45 出発
- 場 所：尾道市因島町 万田発酵(株)HAKKO パーク / 福山大学水族館 / 因島水軍城
- 募集人員：35名(先着順に受け付けます。なお、定員に達し次第締め切ります。)
- 申込期限：9月20日(金)
- 申込先：広島学習センター又は福山サテライトスペース
- 参加費：2,000円程度(予定) (昼食代・入館料・保険料・負担交通費・雑費等)

※ご注意：前日までに学生教育研究災害傷害保険に加入してください。

*****行程*****

広島学習センター 8:00 出発 > 福山サテライトスペース 9:35～45 出発 >
福山大学水族館(10:30～11:00 頃) > 食事処(11:30～12:30 頃) >
万田発酵 HAKKO パーク(12:50～14:00 頃) > 因島水軍城(14:10-15:10 頃) >
帰路(福山サテライトスペース 16:00 頃 > 広島学習センター 17:50 頃着)

福山サテライトスペース主催 美術鑑賞会(ふくやま美術館)

水野勝成福山入封 400 年記念
国宝 久能山東照宮

— 徳川家康と歴代将軍ゆかりの名宝

徳川家康の遺命により創建された国内最古の東照宮、久能山東照宮の宝物の数々を、学芸員の案内のもと堪能しませんか？参加費は無料です。

- 日 時：11月9日(土)
※9：50までに1階ロビーへ集合
9：50～10：00 学芸員による事前学習
10：00～11：30 鑑賞
- 場 所：ふくやま美術館(福山市西町 2-4-3)
- 募集人数：20名
- 申込締切：11月2日(土)
- 申込先：福山サテライトスペース事務局

広島学習センター主催

公開講演会

独立行政法人酒類総合研究所理事長・後藤^{ごとう}奈美^{なみ}様にワインをテーマに講演いただく予定です。是非ご参加ください。(講演内容の詳細は、決まり次第広島学習センターホームページへ掲載します。)

- 日 時：11月2日(土) 13：30～15：00
- 場 所：広島学習センター大講義室(3階)
- 募集人数：100名
- 申込先：広島学習センター事務局



**2019年度 広島学習センター文化祭
展示作品募集**

今年も広島学習センターにおいて、文化祭を開催します。つきましては、学生の皆様より、文化祭で展示する作品(絵画、写真、俳句、短歌、ほか美術作品等)を募集します。作品展示を希望される方は、下記申込書に記入していただき、10月12日(土)までに事務局へ提出してください。

- 文化祭日時：11月2日(土)
- 展示会場：広島学習センター中講義室・小講義室(4階) (予定)

2019年度広島学習センター文化祭 作品展示申込書
申込締切【10月12日(土)】

学生番号		氏名	
電話番号	()	メール アドレス	@
団体名 (学生団体のみ)			
展示作品 の内容			

- ※学生団体での申し込みの場合は、代表者の学生番号・氏名を記入してください。
- ※展示用パネルは事務局で用意します。
- ※展示作品は10月27日(日)までに広島学習センターに搬入してください。

放送大学広島同窓会主催
研究発表会

卒業研究・修士論文に取り組まれた卒業生・修了生に、その成果を発表していただきます。それとともに完成までの過程(テーマ選択、手続き、担当教員の指導、苦心等)もお話していただく予定です。

卒業研究等を履修しようとする方、興味を持っている方、多数のご参加をお待ちしています。

- 日 時：9月1日(日) 14:00~16:00
- 場 所：広島学習センター講義室(当日ご案内します)
- 発表者：学部卒業生、修士修了生各1名を予定
- 申込先：広島学習センターへ電話、又は 0321366664@campus.ouj.ac.jp ヘメール

スケジュール(7月~10月)

7月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	※26	27	28
29	30	31				

19日(金)~20日(土) 単位認定試験(大学院)
 21日(日)~28日(日) 単位認定試験(学部)

8月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	※13	※14	※15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2日(金) 納涼会
 15日(木)~26日(月) 大学院修士全生・博士全生出願期間
 15日(木)~30日(金) 科目登録申請期間(郵送)
 15日(木)9:00~31日(土)24:00 科目登録申請期間(Web)
 31日(土) 2019年度第2学期 第1回学生募集出願締切
 (郵送:本部必着/Web:24:00)

9月

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

1日(日) 広島同窓会主催 研究発表会
 20日(金) 2019年度第2学期 第2回学生募集出願締切
 (郵送:本部必着/Web:24:00)
 24日(火)~29日(日) 視聴学習・図書室学期末臨時閉室
 27日(金)~28日(土) 夏季集中型(看護系)単位認定試験
 29日(日) 学位記授与式/入学者の集い

10月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

5日(土) 大学院入試(筆記試験)
 12日(土) 研修旅行
 19日(土) 面接授業空席発表
 25日(金) 面接授業追加登録

閉所日(月曜日、祝日、所長が必要と認めた日) (※) 臨時閉所日

7月26日(金)と8月13日(火)~15日(木)は、広島学習センター・福山サテライトスペースとも臨時閉所いたします。ご注意ください。

広島学習センター

〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89
 TEL▶082-247-4030 FAX▶082-247-4461

福山サテライトスペース

〒720-0812 福山市霞町1-10-1(まなびの館ロースコム3階)
 TEL▶084-991-2011 FAX▶084-991-2012

MAIL / 学習センターHP

hiroshima-sc@ouj.ac.jp / <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/hiroshima/>

卒業・修了おめでとうございます



広島学習センター

3月31日(日)に、
2018年度第2学期
学位記授与式を行いました。

【2018年度第2学期卒業生・修了生数】

学生所属	広島学習センター	福山サテライトスペース
生活と福祉コース	17	3
心理と教育コース	26	3
社会と産業コース	8	1
人間と文化コース	12	—
情報コース	5	2
自然と環境コース	2	—
生活健康科学プログラム	1	—
人間発達科学プログラム	1	—
臨床心理学プログラム	1	—
人文学プログラム	2	—
合計	75	9



福山サテライトスペース

教職員一同、皆様のご健勝とご多幸、
益々のご活躍を祈念しております。

目次

卒業おめでとうございます..... 1	卒業生代表挨拶..... 4
学位記授与式客員教員祝辞..... 2	卒業生・修了生からのメッセージ..... 6
卒業生・修了生代表挨拶..... 3	

学位記授与式客員教員祝辞

広島学習センター客員教授 椿 康和

卒業生の皆さん、学業を無事に終えて学位を取得なされましたこと、誠におめでとうございます。

多くの皆さんが、長きにわたる努力を積み重ねられて、今日の日をお迎えになられましたことを、センター教員の一人として、心よりお祝い申し上げます。

私は、昨年4月に客員教員を仰せつかった当学習センターの新米教員です。それまで40年近く一般の大学に勤務してきた私にとって、学びたい人が、学びたい内容を、学びたいときに、学びたい場所で、自由に学べるという、まさに「Open University of Japan」という放送大学のオープンさには、予想を超えた新鮮な驚きがありました。とりわけ、放送大学の特徴を感じたのが、通学制の大学では入学の時点で専門分野を決めて、4年ないし6年という一定の学習期間を前提としていますが、放送大学では、10年以上も在学され学習を継続されている方や、いったん卒業された後に、再入学して別のコースの卒業をめざしている方が数多くおられること、そして、何をどのように学んでいくかを、学習者が主体的に決めておられることです。さらに、このような長期にわたる主体的な学習を支援する教育システムが確立していることです。

とはいえ、通学制・通信制を問わず、大学における教育の目的は共通しています。それは、新たな知識や理論を身につけるとともに、論理的な思考能力に磨きをかけて、物事を批判的・客観的に評価する能力を養うことです。そのためには、一人一人の学習努力に加えて、共に学ぶ仲間や教員との交流やディスカッションの経験が効果的であり、学習センターでの様々な交流の場や面接授業、そして卒業研究が大きな役割を果たしています。先日行われた卒業研究成果発表会では、大変興味深いテーマの研究成果を聞かせていただきました。提出期限に向けて時間の制約がある中で、研究報告書をまとめるという作業は、放送大学の特徴である長期的な学習とは相反する面もありますが、それまでの学習を振り返り、さらに次の高みを目指すよい機会になっています。

卒業される皆さんは、ここで1つの区切りを迎えられることになりますが、これまで身につけられた学びの方法論は、この変化の激しい時代の中で、地域社会や職場における様々な課題に対し、これから主体的に対処していくための礎となることでしょう。私たち教員も、卒業研究や学習相談を通じて、皆さんに続く人たちの主体的な学びをサポートしていくために、一層の研鑽を積んでいく所存でございます。

最後になりますが、皆さんの、これからのますますのご活躍を期待するとともに、ご健勝を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。



卒業生・修了生代表挨拶

広島学習センター卒業生・修了生代表 吉田 奈美(情報コース)

今日ここに、私達卒業生・修了生のために、学位記授与式を設けていただき、ありがとうございます。又、山田所長様、御列席の先生から記念すべきお言葉をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。御礼申し上げます。

さて、私の 15 年間の学生生活ですが、入学のきっかけは娘の一言でした。60 才を過ぎた頃から、会話の中で、アレ・コレ・ホラで済ませてしまうことが多くなり、この状態を心配した娘から「何か始めたら。ボケて困るのは私よ」と云われたことです。

では何を始めようかと考え、よく云われている認知症予防対策の 3 点、食事・運動・社会性を自己チェックしてみました。健康寿命ワーストワンの広島県で長寿寿命により近づけるための生活習慣で私に欠けていると思えるのは、社会性でした。

そこで選んだのが、放送大学学生でした。興味のある科目を選べること、自宅で学べること、又、昔好きだった英語の再学習も出来るのでは…と云うのが選択の理由でした。

入学後は、何が何だかわからないうちに試験日が近づき、娘の出産予定日が 8 月 6 日で、お願いだから試験終了後に生まれてきて…と祈っていたことを覚えています。

このようなバタバタ状況から始まった 45 年振りの学生生活でしたが、その後は大学システムの変更で、1 年余分にかかってしまいましたが、当初の 5 コースは順調に進み、問題は新設の情報コースでした。

パソコンも自分に必要な最低限のことだけ、スマホも持っていない機械音痴の私にはとてもとても無理と自覚していました。しかし一応の区切りとして、情報にも挑戦してみたい気持ちもありました。

そこで情報コース新設の翌年「ネットワークの基礎知識」という面接授業を受けてみました。基礎知識とあるので何とかなるだろうの甘い考えは大ハズレで、授業中生汗が出る、気は遠くなる等大変な苦痛を味わいました。「私全然わからないのですが、どうしたら良いですか？」と恥を忍んでお聞きしました。娘よりお若い先生は「わからなくても良いから、可能な限り面接授業を受けてみて下さい。そのうち少しずつ理解できるようになります。」とおっしゃって下さいました。その言葉に助けられ、続けてこれたと思っています。

情報コースに籍をおいてからは、シラバスを参考に、理解できそうな科目を選び、放送授業を、そしてアドバイスの通り面接授業も受講、今日を迎えることが出来ました。

先輩方の挨拶やメッセージを読ませていただく度、皆様本当に意欲的に高い目標を持って学んで来られた様子に驚き、尊敬の念でいっぱいでしたが、結局私はボケ防止で趣味のひとつとして私なりの取り組み方で 15 年過ごしてしまいました。

次頁へ続く



グランドスラム達成で一区切りと云ったところですが、今振り返ってみると、何か新しいことを学ぶことはもちろん、かつて学んで今やアヤフヤになってしまっていることを再び学び、より詳しく知る機会を得たこと等とても楽しいことでした。単位認定試験も嫌だと思ったこともなく受け入れることが出来ました。と云うのも私の勉強法は、ネット配信も利用しましたが、教科書を声に出して何度も何度も読み返すことでした。スラスラと詰まることなく読めるようになると、何故か何となく理解出来た気になり、これで OK と試験に臨んでいました。

放送大学のキャッチフレーズ「学ぶ楽しさ・知る喜び」を感じながら過ごした 15 年間でしたが、今改めてすばらしい教授陣の元で学べたことに気付き、感謝しております。

最近の複雑化している社会環境の中で、色々なケースの意見・コメントに接するとき、多くの放送大学の先生方のお名前を見聞きしてきました。このような先生方による質の高い授業を受け有意義に学んできた貴重な経験を大切にしたいと思っています。

最後、先生方、職員の皆さま、長い間のサポートに感謝しております。私達一同、お礼を申し上げますと共に、今日は本当にありがとうございました。

卒業生代表挨拶

福山サテライトスペース卒業生代表 柳原 明美(心理と教育コース)

本日は、私たち卒業生のためにお集まり頂きありがとうございます。また、ご入学される皆様、おめでとうございます。代表という形でご挨拶させて頂ける機会を与えて下さり、ありがとうございます。

私は、放送大学には、3 年次編入で「心理と教育コース」で 2017 年春に入学しました。無事、目標が果たせたことがとても嬉しいです。さらに、認定心理士も仮認定証が届いており、エキスパートも“心理学基礎”と“臨床心理学基礎”プランの申請をしております。

ここで、放送大学を振り返り、3 つの話をしたと思います。1 つ目が入学した動機、2 つ目が私の勉強方法、3 つ目は放送大学の副産物です。

まず、動機ですが、私が放送大学で学ぼうと思ったのは、“公認心理師”という目標があったからです。以前から放送大学の存在は知っていましたが、自営で仕事をしているので興味はあっても時間を作る気持ちの余裕がありませんでした。私の仕事ですが、福山で初めてのカウンセリング & リラクゼーションルームを 20 年前に開業しました。

と言う事で、公認心理師の情報はカウンセラー仲間から入って来ていて、試験が行われる情報と共に、受験資格を得るには指定大学と大学院に行く必要があるとの事でした。そして、今なら経過措置という事で指定大学以外でも許可されるであろうとの情報を得て、すぐさま仕事をしながら出来る大学を探しました。一番仕事をしながらこなせそうだったのが放送大学でした。結果、公認心理師の経過措置単位も取得する事が出来ました。

[次頁へ続く](#)



実のところ、昨年、第一回公認心理師の試験は実務経験 5 年以上が認められたので、受験しております。

私はカウンセラーの養成講座を経て、さらに、産業カウンセラーや催眠療法士の勉強など他の資格も取得しておりますが、国試は臨床心理士が勉強する内容に近く、昨年は数点足りなかった結果で終わりました。国試の時期と大学の単位認定試験の勉強が重なっていたので、国試の勉強に費やせなかったというのもあるのですが、しかし、同カウンセラー養成講座から心理職に就いている友人に比べるとはるかに点が良かったのは、放送大学の勉強をしたからだと思っています。

次に勉強方法です。私は、元々記憶する事が苦手で、人の 3 倍勉強をしないと追いつかないと思っております。ですから、時間を作る必要があります、2 年間で卒業するという固い意思を持ち、生活スタイルを変えました。書斎を勉強用に片づけ、軽くりモデルしました。時間を作るために、夜飲み会などの外出を止め、録画して見ていたテレビもかなり減らしました。また、勉強においては、必要なテキストと放送数、及び過去問の勉強などを日にちで割り当てた表を作り、コーチングしました。人の 3 倍というのは、1 回目はどんな内容か一通り目を通す事、2 回目はどこが苦手なのかを知る為にテスト問題をしながら一通り見直す事、3 度目は苦手な所をさらに深める事をしました。また、週 2 回、高速バスで広島に出張に行っていますので、放送大学のスマホアプリをダウンロードして、ラジオ放送があれば道中に聴いていました。道中の風景は内容を想起するのに役立ちました。

こういう計画を立てる事で、安心して試験に挑めたのと、それ以外の時間は仕事に集中できたと思っています。

最後に副産物と言いましたが、これは人との繋がりで、元々、私は目標がはっきりしていたのと、時間が作りにくかったので、卒業研究には時間が費やせないで選択しませんでした。ですから、他の生徒と触れ合う事もなく終わるであろうと思っていました。ところが、資格取得のために面接授業を受ける必要があり、数回面接授業を受けました。そこで知り合った方とランチに行く事もあり、アドレス交換をしました。単位認定試験でもお会いして、流れでご飯を食べたりもしました。他県の面接授業で知り合った方とは宿が一緒だったりもしました。今後も、勉強や業界の情報交換を中心にやりとり出来る友人が出来ました。

放送大学の単位認定試験に行くと、私よりもっと先輩の方がいらっしや、勉強されているお姿も拝見して勇気づけられました。

こういう環境と経験する機会を与えてくださった放送大学の皆様に感謝を致します。本当にありがとうございました。

名誉学生表彰



福山サテライトスペース所属の吉田 奈美さんは、2018 年度第 2 学期に卒業された情報コースをもって、教養学部全 6 コースすべてを卒業し、見事グランドスラムを達成されました。

吉田さんには広島学習センター・福山サテライトスペースにおいて 3 人目となる放送大学名誉学生の称号が授与され、3 月 31 日(日)に開催された学位記授与式において、名誉学生の表彰が行われました。

卒業生・修了生からのメッセージ

2018年度第2学期卒業生・修了生の皆様より、卒業・修了にあたっての思いや、これから学ぼうとする学生の皆さまへ向けてのメッセージをいただきました。

●生活と福祉コース卒業 石光 澄子

71歳から始めた放送大学も早や13年になり3コース卒業することが出来ました。

入学した当初はパソコン上ではなくテレビ放送の録画をしたり大変でしたが、今ではパソコンで勉強出来大変便利になりました。

今年度から4コース目に挑戦しますが苦手なコースが後回しになり無事卒業できるか不安です。人生100年時代と言われる今日この頃、もう少し勉強する時間が残っているのでは？と思っています。

放送大学のお蔭で知識を豊富に頂き、私にとって楽しみの一つとなり、今後にも希望を持てるようになりました。又家で勉強できるのも最高です。

●生活と福祉コース卒業 東條 文也

このたび心理と教育コースを卒業することとなりましたが、ちょうど還暦で定年退職をすることになり、人生の大きな節目を迎えることになりました。これまでの60年の人生を振り返ると、当時わからなかったことが心理学を学んだことにより、こういうことだったのかと思ひあたることがたくさんありました。もっと早く心理学を勉強していればまた違った対応ができたのではないかと、学習をすることの大切さをひしひしと感じます。

卒業後も、新コースに再入学して学習を継続したいと思っています。良き指導をいただきました先生方、親切な対応をしていただきました事務職員の方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

●心理と教育コース卒業 長久 奈穂

放送大学で学ぶきっかけは、子育てでつまづいた事が始まりでした。家族の介護をしながら発達障害のある息子を育てていく中で、心の余裕が無くなりました。でも「人の心理を知れば、何かが変わるかもしれない」と、わらをも掴む気持ちで心理学を学び始めました。3年次編入して4年半かかっていた卒業ですが、心理学は子育てで大いに役立っています。まだ認定心理士取得の目標があるので、これからも継続して学ぼうと思います。

●心理と教育コース卒業 野間 了子

私は、いつか大学院で心理臨床を学びたい、という夢を抱いて心理と教育コースに編入しました。その夢が叶い、今春、県内の大学院に進学することになりました。放送大学で質の高い講義を受講できたこと、卒業研究でよい先生に恵まれ、苦手な量的研究に取り組めたこと等、放送大学でのすべての経験が進学につながったのだと思っています。先生方、学習センターの皆様、先輩方・友人に心から感謝いたします。ありがとうございました。

●心理と教育コース卒業 平田 健志

このたび心理と教育コースを卒業になりました。これで5度目の卒業になります。既に勤務先は定年退職していますので、あまり卒業にはこだわってないのですが、20年も放送大学生をやっているといつの間にか5回目の卒業になってしまいました。次は情報コースに再入学の予定です。引き続き頭を錆びさせないため、生涯学習のつもりでのんびりやりたいと考えています。放送大学は、色々な科目が学べるのが魅力です。みなさんもがんばってください。

●心理と教育コース卒業 保井 浩司

卒業にあたり、学習を始めたころは、自分の習いたい、興味のある授業や科目だけ受け、学習するつもりが、単位を半分程度取得した頃に、卒業を目指してみたらと、アドバイスや励ましの言葉など周りからかけて下さり、卒業まであと半分、いやまだまだと思いつつも、学習してまいりました。最初のコースは卒業まで6年以上かけてやっとの思いで卒業致しましたが、今回は3コース目の卒業となり、達成感もありながら、もう少し勉強を続けたく次のコースの授業を受けてみようかと、考えている次第です。

●心理と教育コース卒業 柳原 明美

放送大学に入学した理由は、公認心理師の受験資格を得るためです。編入で3年生からのスタートだったので、2年での卒業を目指しました。記憶力が悪いので、人の3倍は勉強しないと頭に入らないと思い、仕事もしているので時間作りのため、時間割を細かくExcelで表にてコーチングしました。無事、予定通り卒業が決まり、さらに認定心理士、心理のエキスパートも2種類、国試の経過措置単位も取る事が出来て卒業が決まり嬉しいです。

●心理と教育コース卒業 山田 恵美子

定年を三年後に控えた春、「今しかない」と聞こえた気がして大急ぎで手続きをし、五年。一番学びたかった「心理学」は目から鱗の内容ばかりで、日中の勤務の疲れも忘れ教材を何度も読み、放送授業を視聴しました。面接授業も何度か仕事で欠席ということもありましたが、認定心理士の資格も取得でき、今後は大学で学んだことを生活の中で必ず生かしたいと考えています。

今まで全面協力してくれた家族に、そして大学関係者の皆様に心から感謝致します。

●社会と産業コース卒業 中田 誠

私は、高校を卒業し、民間企業を経て、現在、公務の職に就いています。

職場等で多くの方々に出会い、ふと感じることがありました。知識や経験を多く持つ人達は、人生を豊かに生きているように。

そうした方々に刺激を受け、放送大学に入学し、その学びを通して、私は関わる人達や生きていることへの感謝の念を改めて抱くことができました。

次は、大学院へチャレンジします。これからも豊かな人生を過ごしていきたいと思います。

●社会と産業コース卒業 安永 美子

この度4回目の卒業認定を頂き感無量です。4年前の転倒以来、杖に縋り周りに助けて頂く暮らしに一変しましたが、辛い中マイペースで続けた放送大学の学習は大きな励みでした。

ただ18年前の入学時の学習への情熱と意欲は持ちつつも年ごとに認知機能の低下は否めず、認定試験はしんどいのでパスしようかと悩みました。しかし試験は独り学習の理解度の評価なのだと思え受け止め歩行可能な限り受験を頑張る事にしました。それが認められ卒業の喜びに繋がりました。継続入学でこれからの高齢社会を生きる力を学びたいと思って居ります。

この度の卒業に際し色々お世話下さいました皆様方に心から感謝申し上げます。

●人間と文化コース卒業 S.S

定年退職後、放送大学に入学した。爾来15年間、学生として学びを続けている。その間目標としていた「心理と教育」コース卒業、人間発達科学プログラム修了、認定心理士の資格取得をした。今回「人間と文化」コースに再入学し、更に一つの山をクリアすることができた。私は「学習の日」として曜日を決めて受講してきた。講義の時間になると、体中に気力が湧きあがり、理解力が増してくる。放送大学は、私にとって生きる力である。

●人間と文化コース卒業 高田 光枝

卒業研究論文執筆に先だって、指導教員の先生から「楽しんで論文を書きましょう」と、楽しく学ぶことの大切さを教わった。「卒業までには、犠牲にしたものが多い、今日はそれ以上の喜びを得る」、卒業研究論文提出しての卒業式の祝辞の言葉には感慨深いものがある。

社会人で、また年齢をとってから学ぶということは、身体的などのハードルは高い。しかし、楽しく学ぶ時間や喜びは若くない方が、より感じられるのではないかと思われる。

●人間と文化コース卒業 山添 智矢子

目標を持って学ぼうと入学しました。

県外の面接授業も受講し、勉強の苦楽、試験後の達成感をおし学ぶことは楽しいと感じました。学びとは「疑問を持つこと」「インプットするだけでなくアウトプットすることも必要」で、個人が知識を集積するだけでなく社会に還元することが必要だと学びました。

継続入学し今後も目標に向かい励んでまいります。

先輩方や学習センターの方々の親切なサポート、支えてくれた家族に感謝します。

●情報コース卒業 吉田 奈美

単純にボケ防止で入学した放送大学ですが、肌に合っていたのでしょうか…又、受験時学校に行くと、周りの人達の学習姿勢に刺激を受け、15年間続けた結果、今学期でグランドスラム達成となりました。

時代でもありますが、田舎の高校卒で、家で教科書を開いた記憶も無い私にとって、テレビやパソコンの前で勉強すると云った行為だけでも、とても新鮮で貴重な経験でした。又、スゴイ先生方の元で学んでいたことに改めて気付き、感謝しています。

●臨床心理学プログラム修了 佐々岡 未央

この2年間は、今までの人生を見つめ直し、これから生きる力を養うための貴重な時間でした。以前から、臨床心理士に憧れながらも、他学部卒で途方に暮れていました。社会人大学院生を経て、遠い夢を具体的な目標に近づけることができました。さらに、その過程での出会い(先生方、全国の同期たち、広島学習センターの方々…)が大切な宝物です。

今までありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いいたします。

●人文学プログラム修了 永光 朱美

私が大学院に入った動機は、ローマのバチカン美術館、スペインのプラド美術館などに絵画を観に行く、機会が何度かありました。そのような時に、青山昌文著『美学・芸術研究』という講義に出会い、感銘を受けました。17世紀スペインの画家ムリリョが描いた「無原罪の御宿り」という聖母の絵画について論文が執筆できればと思ったのです。心ひかれることは学問的困難に出会っても乗り越えることができると実感しています。



卒業・修了
おめでとうございます